２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅠ （ Carrier Planning Ⅰ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	矢作　友規
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3時限

【授業の学習内容】

キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。
各種学校イベントを通し、クラスマネジメントを理解する。また、社会集団の一員として自身の立場を確立する。

【到達目標】

■社会人としても求められる、社会性・人間性を身に付けることが出来ている。
■クラス集団の中で協調性を持ちながらも自身の考え思いを人に伝えることが出来る。

授業計画・内容	
1回目	授業オリエンテーション： 3年間のキャリアプランニングを理解する
2回目	学習能力チェック：今後の学習を円滑に進めていくために、現状の学習能力を確認する
3回目	セルフマネジメント/GWの過ごし方　キャリアデザイン/自己理解　Hand-book of Life Style
4回目	セルフマネジメント/GWの振り返り　キャリアデザイン/3年間の計画　Hand-book of Life Style
5回目	学生生活サポート/成人の自由と責任　消費者被害　チームマネジメント/学園祭について
6回目	学生生活サポート/自転車のルール　チームマネジメント/学園祭について
7回目	学生生活サポート/薬物問題　チームマネジメント/学園祭について
8回目	学生生活サポート/性犯罪　チームマネジメント/学園祭について
9回目	コミュニケーションワークショップ：ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する　チームマネジメント/学園祭の振り返り
10回目	コミュニケーションワークショップ：ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
11回目	コミュニケーションワークショップ：ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
12回目	コミュニケーションワークショップ：ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する　夏休みの過ごし方
13回目	スポーツフェスタについて①　宿泊研修事前課題①　前期試験に向けて
14回目	スポーツフェスタについて②　宿泊研修事前課題②
15回目	スポーツフェスタについて③　宿泊研修について　前期振り返り、後期について
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨むこと。
評価方法	1. 授業態度 （30%） 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの　（50%） 3. 出席 （20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・オリジナルPowerPointなど

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅠ （ Carrier Planning Ⅰ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	矢作　友規
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3時限

【授業の学習内容】

キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。
各種学校イベントを通し、クラスマネジメントを理解する。また、社会集団の一員として自身の立場を確立する。

【到達目標】

■社会人としても求められる、社会性・人間性を身に付けることが出来ている。
■クラス集団の中で協調性を持ちながらも自身の考え思いを人に伝えることが出来る。

授業計画・内容	
1回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する　・Hand-book of Life Style
2回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する　・Hand-book of Life Style
3回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する　・Hand-book of Life Style
4回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する　・Hand-book of Life Style
5回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する　・Hand-book of Life Style
6回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する　・Hand-book of Life Style
7回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する　・Hand-book of Life Style
8回目	チームマネジメント / 進級課題制作①、We are ECOについて①
9回目	チームマネジメント / 進級課題制作②、We are ECOについて②
10回目	チームマネジメント / 進級課題制作③、We are ECOについて③
11回目	チームマネジメント / 進級課題制作④、We are ECOについて④
12回目	チームマネジメント / 進級課題制作⑤、We are ECOについて⑤
13回目	チームマネジメント / 進級課題制作発表①　業界研修について
14回目	チームマネジメント / 進級課題制作発表②　業界研修について
15回目	1年間振り返り
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨むこと。
評価方法	1. 授業態度 （30%） 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの　（50%） 3.　出席 （20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・オリジナルPowerPointなど

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	プレゼンテーションⅠ （Presentation Ⅰ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代　マキ
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日4時限

【授業の学習内容】

社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。
表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習する。

※担当教員実務経験：キャリアカウンセラー（技能士2級）、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリヤ教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。

【到達目標】

元気な挨拶ができるようになる。
相手の立場を考えて話す力を身に付けることができる。
文章組み立て力を身に付けることができる。
周りと協力する力を身に付けることができる。
復習力を身に付けることができる。

授業計画・内容	
1回目	授業の内容と意義について
2回目	なぜ学校で学ぶのか？グループワーク討議・伝え方のポイント
3回目	言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて
4回目	表情の意味・視線伝達マーク
5回目	相手意識を持った伝え方自己表現練習
6回目	聞くと聴くの違いと、きき上手のポイント
7回目	他己紹介準備
8回目	他己紹介
9回目	報告の仕方・PREP法を身につける。
10回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション準備
11回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション披露
12回目	言葉遣いと敬語の使い方①グループで美化語見つけ
13回目	言葉遣いと敬語の使い方②敬語を使用しての場面練習
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	プレゼン力：40% 傾聴力：30% 筆記試験30%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	プレゼンテーションⅠ （Presentation Ⅰ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代　マキ
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日4時限

【授業の学習内容】

社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。
表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習する。

※担当教員実務経験：キャリアカウンセラー（技能士2級）、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリヤ教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。

【到達目標】

前期の目標に続き、更にグループの中の個の役割を果たす努力ができる。
会話力やプレゼンテーション力を磨き現状の自分を知り、自信をもって、主体的に人と関わって行けるようになる。

授業計画・内容	
1回目	後期の目標設定
2回目	ストレス対策　性格の作られ方
3回目	効果的な質問の方法　他己紹介後期編準備
4回目	他己紹介　自己成長評価
5回目	バーバルコミュニケーションとグループワーク
6回目	ノンバーバルコミュニケーションとグループワーク
7回目	中間評価
8回目	仕事遂行能力ペアワーク
9回目	仕事遂行能力グループワーク
10回目	グループワークディスカッションと発表（意見とアイデア）
11回目	グループワークディスカッションと発表（課題解決）
12回目	一年間の成長プレゼン①
13回目	一年間の成長プレゼン②
14回目	後期評価テスト
15回目	後期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	プレゼン力：40% 傾聴力：30% 筆記試験30%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	コミュニケーションスキルアップ Improving Communication Skills	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	セレーノ・コーポレーション
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3限目

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、
豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	授業の進め方、オリエンテーション（自己紹介）、コミュニケーションの定義【P9～】
2回目	第一印象（コミュニケーションの定義、メラビアンの法則、笑顔の作り方）【P14～】 基本的対話スキル、会話のプロセス
3回目	基本的対話スキル 「話し方」【P18～】
4回目	基本的対話スキル 「聴き方」【P23～】
5回目	基本的対話スキル 「グループでの会話」【P34～】
6回目	ロープレ：情報共有、整理・集約のゲーム①、中間試験対策
7回目	中間試験、自己表現スキル 「挨拶」「自己表現」【P42～】
8回目	中間評価フィードバック、自己表現スキル 「上手な頼み方、断り方」「自己主張」【P46～】
9回目	自己表現スキル 「報連相」「会議・ミーティング」【P60～】
10回目	自己表現スキル 「アンガ―マネジメント」【P80～】
11回目	社会的スキル 「基本的な社会的スキル」【P94～】
12回目	社会的スキル 「挨拶」「敬語」「電話応対」【P96～】
13回目	前期評価テスト　対策
14回目	前期評価テスト　実施　試験後、教科書のポイントを再度伝え、内容を理解させる
15回目	前期評価テスト　解説 後期の授業の進め方
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておくこと。
評価方法	試験100%

【使用教科書・教材・参考書】

コミュニケーションスキルアップ検定（JESC）

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	コミュニケーションスキルアップ Improving Communication Skills	必修選択	必修	年次	1	担当教員	セレーノ・コーポレーション
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3限目

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、
豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	ロープレ：ビジネス電話検定、電話応対ゲーム
2回目	社会的スキル 「接客」「訪問」【P105～】
3回目	社会的スキル 「謝罪」【P112～】
4回目	ロープレ：接客、訪問、名刺交換
5回目	社会的スキル 「ビジネス文書」「メール」「FAX」「SNS」【P116～】
6回目	中間試験対策
7回目	中間試験、サービスマインドとは
8回目	中間評価フィードバック DVD鑑賞　マナーの本質 「相手を思いやる心」
9回目	サービスマインド 「サービスとは」「サービスの心得」【P126～】
10回目	サービスマインド 「サービス基本要素」【P132～】
11回目	ロープレ：ビジネスシュミレーションゲーム（敬語・電話応対・訪問・接客）
12回目	謝罪（謝る、お詫びする） マナーを意識した行動
13回目	後期期末試験対策
14回目	後期期末試験、ビジネスシュミレーションワーク
15回目	1年間の総復習、ロープレ
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておくこと。
評価方法	試験100%

【使用教科書・教材・参考書】

コミュニケーションスキルアップ検定（JESC）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	コンピュータ演習 （ Computer Skills Practice ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	千葉　惠一
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日2時限or火曜日3時限

【授業の学習内容】

業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく。
前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する。
前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。
基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。

※担当教員：長年滋慶学園各校でコンピュータ授業を担当。

【到達目標】

教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる
Wordを使ってレポート作成が出来るようになる
安全にインターネットを利用できるようになる
「We are ECO」のスライドが作れるようになる

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／ITリテラシー①
2回目	ITリテラシー②
3回目	Wordの基本操作①
4回目	Wordの基本操作②
5回目	Wordの基本操作③
6回目	Wordの基本操作④
7回目	Wordの基本操作⑤
8回目	Word中級編①
9回目	Word中級編②
10回目	Word中級編③
11回目	Wordの応用①
12回目	Wordの応用②
13回目	Wordの応用③
14回目	期末評価/Wordの応用まとめ
15回目	PowerPoint基礎①
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認すること。
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%)　※中間・期末の評価は提出作品（Word作品提出）

【使用教科書・教材・参考書】

・COMPUTER　BASIC　WORD　2019　（株式会社滋慶出版）
・COMPUTER　BASIC　EXCEL　2019　（株式会社滋慶出版）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	コンピュータ演習 （ Computer Skills Practice ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	千葉　惠一
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日2時限or火曜日3時限

【授業の学習内容】

業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく。
後期は「Excel」を使い「計算式が入った表」や「読みやすいグラフの作り方」を勉強していく。
Excelへの苦手意識を少しでも減らす講義にする。
基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。

※担当教員：長年滋慶学園各校でコンピュータ授業を担当。

【到達目標】

Excelへの苦手意識を少しでも減らし、教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる。
Excelを使って計算式が入った表やグラフが作成出来るようになる。
「We are ECO」のスライドを作成することが出来るようになる。

授業計画・内容	
1回目	PowerPoint基礎（印刷、スライドマスター、切り替え効果、アニメーション）
2回目	PowerPoint課題提出
3回目	Excelの基礎①
4回目	Excelの基礎②
5回目	Excelの基礎③
6回目	Excelの基礎④
7回目	Excel中級編①
8回目	Excel中級編②
9回目	Excel中級編③
10回目	Excel中級編④
11回目	Excelの応用①
12回目	Excelの応用②
13回目	Excelの応用③
14回目	期末評価/Excel応用まとめ
15回目	まとめ(Word・Excel・PowerPoint)
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認すること。
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%)　※中間・期末の評価は提出作品（PowerPoint作品提出・Excel作品提出）

【使用教科書・教材・参考書】

・COMPUTER　BASIC　WORD　2019　（株式会社滋慶出版）
・COMPUTER　BASIC　EXCEL　2019　（株式会社滋慶出版）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	アニマルベーシック (Animal Study Basics)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物に関する勉強をする場合の生物学的基礎知識を理解する。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

基礎生物学の知識を身につけることにより、動物業界で活躍する人材になることを目標としている。

授業計画・内容	
1回目	光合成・食物連鎖、血液の役割・成分・生成、消毒滅菌について理解できる。
2回目	ズーノーシス、濃度計算と希釈法、バイタルサイン、生体防御システムについて理解できる。
3回目	エイズと免疫、アレルギーと免疫、ワクチンと免疫、外分泌と内分泌、代謝について理解できる。
4回目	五大栄養素、遺伝、繁殖、イヌとネコの交配について理解できる。
5回目	DNA・遺伝子・ゲノム、体細胞クローン動物、外来種、絶滅危惧種について理解できる。
6回目	温暖化、酸性雨、オゾンホール、エコロジー関連の国際条約について理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

株式会社滋慶出版 「ECO業界で役立つ基礎生物」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物の体のしくみ (Animal Anatomy and Physiology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

犬を中心とした基本的な動物の体の構造・骨格や生理的な知識について、理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

犬の体を構成する各機関の位置、構造、機能をそれぞれ理解することにより、動物の飼養管理や疾病予防に役立つことを目標とする。

授業計画・内容	
1回目	外皮系、消化器系（歯・食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆のう・膵臓）の構造と働きについて理解できる。
2回目	泌尿器系（腎臓・膀胱）、呼吸器系（気管・肺）の構造と働きについて理解できる。
3回目	生殖器系（雄性生殖器・雌性生殖器）、内分泌系（下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・胸腺）の構造と働きについて理解できる。
4回目	循環器系（心臓・血液循環・リンパ系）、感覚器系（眼球・耳）の構造と働きについて理解できる。
5回目	神経系（脳・脊髄）、筋系（骨格筋・横隔膜）の構造と働きについて理解できる。
6回目	骨格系（骨格）、細胞の構造と働きについて理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

株式会社滋慶出版 「イラストで見る動物の体のしくみ（ECO専門基礎科目テキストセット）」

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	動物の健康管理 （ Animal Health Management ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	髙山 清次
		授業形態	講義	総時間（単位）	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解できている。

授業計画・内容	
1回目	ウォンバット・キツネ・キリン・カンガルーなどの飼養管理について理解できる。
2回目	クマ・タヌキ・ゾウ・ニホンザルなどの飼養管理について理解できる。
3回目	アザラシ・イルカ・ウミガメ・クラゲなどの飼養管理について理解できる。
4回目	イヌ・ネコ・ウサギ・インコ・モルモットなどの飼養管理について理解できる。
5回目	ウシ・ウマ・ニワトリ・ブタなどの飼養管理について理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

株式会社滋慶出版 「イラストで見る動物の体のしくみ（ECO専門基礎科目テキストセット）」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	アニマルヒストリー （History of Interconnections between Animals and Humans）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

広い視野と柔軟な考え方を持ち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標とする。

授業計画・内容	
1回目	動物の進化とゲノムDNAの進化について理解できる。
2回目	イエイヌの歴史、人間と家畜の歴史、動物の仕事に携わる者としての倫理を理解できる。
3回目	ペットビジネスの種類を理解し、環境を守る観察と観光について知識を深めることができる。
4回目	動物介在療法（AAT）と動物介在活動（AAA）、動物が人に与える効果について、セラピーに向く動物の育成、ペットロスについて、理解できる。
5回目	牧羊犬、警察犬、救助犬、身体障害者補助犬法、盲導犬、介助犬、聴導犬、ズーノーシスについて理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

株式会社滋慶出版 「動物年表で知るアニマルヒストリー（ECO専門基礎科目テキストセット）」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	次世代のための環境教育 （Environmental Study for the Next Generation）	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	高田　浩二
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限

【授業の学習内容】

環境教育という言葉は、45年前の1975年に国連のベオグラード憲章の中で提唱された言葉である。また、我が国の公害も水俣病のように1950年代からすでに問題になっており、環境に対する人々の興味関心を高める教育は半世紀以上前から重要視されてきていた。近年、SDG's やマイクロプラスチックが注目されているが、環境教育は近年のトレンドではない。私たちは古くからあった環境問題を学ぶために誰からどのような機会を与えられてきたか、またそもそも地球にとって環境とはなにかを知っておく必要もある。本講義では地球環境や環境教育に対する基礎から応用までを解説し、それぞれに理解できることで、次世代の環境に対する認識や知識の習得を目指す。

※担当教員実務経験：海と博物館研究所長。1988年6月～海の中道海洋生態科学館に勤務し（2004年～2016年は館長を歴任）。その後、2019年3月まで福山大学生命工学部海洋生物科学科教授を務める。水族館に限らず、広く博物館学や学芸員養成課程にも従事し、福岡県内の大学でも教鞭をとっている。

【到達目標】

講師が長年勤務してきた水族館の環境教育の展示や解説、教育普及の活動、また、生き物の命を預かる場でもある水族館の役割などにも理解を深める。さらに、そもそも私たちの住む地球がどれほど奇跡的な出来事の繰り返しで今日の環境ができているかについて、具体的な環境因子ごとに、例えば「光」という当たり前の存在が宇宙誕生から今までの悠久の時間の流れの中での影響についても関心を深める。
＜具体的な目標＞
目標①水族館や博物館の役割の中で、環境教育にどれほど寄与できるかに気付くことができる。
目標②地球上の様々な環境因子が、生物やその進化にどう影響を与えて今の環境があるかに気付く。
目標③多くの環境問題の実態を知り、自分がどのように行動すべきか、具体的なイメージをつかむことができる。

授業計画・内容	
1回目	（目標①）海の命から学ぶ環境教育　水族館の役割の中にある環境教育に気付く。
2回目	（目標①）ヒトが動物を飼う（命を預かる）環境とは　動物園水族館に限らず、ペットや畜産などにおける人の飼育という行為や環境に理解を深める。
3回目	（目標②）環境要因　光と生物1　光とは何かについて宇宙物理学的視点から生物への影響に気付き、環境要因の1つである光に理解を深める。
4回目	（目標②）環境要因　光と生物2　光が生物進化のなかでどのように環境因子として関係してきたかについて理解をする。
5回目	（目標②）環境要因　光と生物3　光と色の関係やそれらが生物の目の発達にどう影響してきたか気づく。
6回目	（目標②）環境要因　生物の住環境について生態学という側面から考えることができるようになる。
7回目	（目標②）環境要因　鉄と生物1　地球環境における鉄の循環が生物にとって重要な呼吸にどう関与しているかを知る。
8回目	（目標②）環境要因　鉄と生物2　生物の呼吸の仕組みが環境とどう関係しているか、呼吸確保の仕組みを知る。
9回目	（目標②）環境要因　塩分と生物　水辺にすむ生物が塩分と生息環境がどう関与しているか気づく。
10回目	（目標②）環境要因　振り返り学習　地球誕生のYouTube教材視聴と感想交流することで他の学生と学びを深める。
11回目	（目標③）海洋プラスチック問題と博物館　近年になって問題されるマイクロプラスチックによる海洋汚染に博物館はどう関与できるかを知る。
12回目	（目標③）欧米の水族館における環境教育とその展示　環境教育先進国での事例から我が国の水族館の在り方を考える。
13回目	（目標③）動物愛護や環境保全に関する法律と水族館　環境問題に関する法律を知ることで自分の行動の在り方に気付く。
14回目	評価試験と振り返り
15回目	評価試験解説、模範解答
準備学習 時間外学習	（目標①）できるだけ多くの博物館、水族館を見学、もしくはウェブサイト経由で訪問する。 （目標②）中学校時代の理科学習（物理、地学、生物、化学）を多面的な視点で振り返ってみる。 （目標②）日常の身の回りの出来事になぜ、どうしてという気持ちや視点で見つめなおす。 （目標③）これからの水族館や博物館がどうなっていくか環境問題との関連から想像する。
評価方法	毎回の講義に簡単な授業感想を書いて提出すること。 13回目のワークショップは制作物で評価する。中間テストは行わない。 ●授業感想と制作物（10%） ●定期テスト（90%） 上記の割合で成績評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】

水族館の仕事、「西源二郎・猿渡敏郎」編著　東海大学出版会。海洋プラスチックごみ問題の真実、「磯辺篤彦」著　DOJIN選書。

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	次世代のための環境教育 （Environmental Study for the Next Generation）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大橋 光雄
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 2時限

【授業の学習内容】

環境問題の概略を理解し、ジレンマや事例研究を参考にトリレンマ懸案をどのように自分たちの職場や社会にしていくか、またワークショップ（workshop）を用い読み解く力をつける。

※担当教員実務経験：福岡県キャンプ協会会長歴任後、現名誉会長。（公益社）日本キャンプ協会　元理事・専門委員。
アメリカ冒険学校「THE NATIONAL OUTDOOR LEADERSHIP SCHOOL」へ留学、WRWコース終了。
キャンプディレクター1級とプロジェクトワイルド上級指導者資格を有し、多くのキャンプイベントや執筆、普及活動に携わる。

【到達目標】

自分たちの業界と環境問題のつながりを知り、環境教育の必要性と目的を理解する。また、自然環境の一員としての人間の位置づけを環境倫理の面から掘り下げて考察する。
その上で主に9のカテゴリーで環境教育を紐解き多様な考えや社会経済との結びつきを考えることができるようになる。
各時間の授業のPPTを用い内容にそった講義とワークショップ（workshop）を通して理解を深めるようにする。
また、実際に今の環境教育が考えられるように新聞報道や環境教育の取り組みアクティビティ等演習を実施する。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・環境教育の必要性と目的
2回目	世界の環境問題１（地球温暖化）海洋のメカニズム
3回目	世界の環境問題２（海洋と生物多様性）仕組みと身近な事例
4回目	世界の環境問題３（オゾン層の破壊）
5回目	世界の環境問題４（海洋汚染～ゴミ問題～食糧問題）
6回目	環境問題の啓発者の探る１．　Severn Cullis-Suzuki　リオの伝説のスピーチを読み解く
7回目	環境問題の啓発者の探る２．　世界の環境教育の流れ「ベオグラート憲章」
8回目	日本の環境教育の流れ「関心・理解・行動」日本型の検証
9回目	環境教育における環境倫理　酸性雨・海洋汚染　マイクロプラスチック
10回目	環境教育における環境倫理　有害廃棄物の越境移動
11回目	環境教育における環境倫理　水生生物種の減少１　マイクロプラスチック
12回目	環境教育における環境倫理　水生生物種の減少２　マイクロプラスチック
13回目	環境教育における環境倫理　ジレンマからトリレンマ　砂漠化
14回目	理解度の確認　Q&A　環境クイズ　エコ検定
15回目	試験の解説と補足
準備学習 時間外学習	毎回動画や新聞を題材に用いアクティブラーニングESD（Education for Sustainable Development）　SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）等を用いる。世界の動きやニュースソースに関心を持ち環境用語を理解しておくこと。
評価方法	定期試験:80% 発表:10% 受講出席率:10%

【使用教科書・教材・参考書】

適宜　資料を配布する。 また授業理解のためのミニテストを行う。

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	魚類研究 (Fish Biology)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	福田　海輝
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		（２）	曜日・時限	金曜日2時限or5限目

【授業の学習内容】

本物の魚を用いたスケッチから始め、魚の形(構造)をとらえる。また、成長段階や生活史の区分等、広く魚類学についての用語を理解する。条件が合えば、実際に人工繁殖も行い、魚の発生方法や産卵に至るメカニズムを探る。その他、生物関連のニュース等をピックアップし、自然及び生物多様性と人との関わり、動物業界の世間的なイメージ・評価をとらえる。

※担当職員実務実績：2015.4～北九州市の公共施設にて環境教育に従事。

【到達目標】

・魚類に関する基本的な用語を理解する。
・環境教育に関わるうえで必要となる基本的な心構えをある程度理解する。
・自分が感じた魅力を相手に言葉で伝えられるようになる。
・イベント参加者や来館者の年齢層に合わせた話のネタを見つけられる。
・環境教育現場その他で便利なロープワークが出来るようになる。

授業計画・内容	
1回目	自己紹介・施設紹介・授業内容説明
2回目	スケッチ講座①　～紙と鉛筆でシルエットをとらえる～
3回目	魚の分類体系①　～脊椎動物の中の魚～　／　日本産魚類とは
4回目	標準和名と別名　／　各鰭の名称　／　純淡水魚とは
5回目	ロープワーク①　～止め結び＆巻き結び～　／　スケッチ講座②　～各部位の名称と位置関係～
6回目	魚の分類体系②　～ヤツメウナギの仲間＆軟骨魚綱～
7回目	中間試験＆振り返り
8回目	ロープワーク②～二重蝶結び＆本結び＆縦結び　／　在来種と外来種　～外来種・移入集団・国内外来・国外外来・特定外来生物～
9回目	スケッチ講座③　～鱗を意識する～
10回目	魚の分類体系③コイ目　～コイ・カマツカ・ドジョウ～　／　コイとフナから見る魚の同定　／　フナの特異性
11回目	魚の分類体系④ナマズ目　～ギギ・アカザ～　／　脂鰭のある魚
12回目	ロープワーク③～八の字結び＆二重八の字結び　／　スケッチ講座④　～鱗を意識する～
13回目	博多湾釣り実習①
14回目	前期期末試験と振り返り
15回目	テスト返却　／　解説　／　おわりに
準備学習 時間外学習	・生物関連ニュースに目を通し、自分の考えを持つこと。
評価方法	・中間試験　　…25% ・前期期末試験 …75%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	魚類研究 （Fish Biology）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福田　海輝
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限or5限目

【授業の学習内容】

前期で踏まえた内容をもとに、後期は魚の剥製づくりをはじめとした作品制作など、より発展した内容の実習とする。魚類剥製は、薬品を極力使わずに安価且つ鑑賞に堪えうる作品を目指し、より多くの人に伝える手段の一つとして取り掛かる。実習は可能な限り複数の内容を用意し、学生自身が取り組みたいものを選択できるようにする。その他、近年重要視されつつある里山などの二次的自然の保全や環境系事業でも応用できるような、より派生した「環境教育に関する知識」を学んでいく。題材は前記と同じく講師所属の施設の取り組みをもとに、その他の園館での取り組みなども盛り込む。

※担当職員実務実績：2015.4～北九州市の公共施設にて環境教育に従事。

【到達目標】

・魚類に関する基本的な用語を理解する。
・環境教育に関わるうえで必要となる基本的な心構えをある程度理解する。
・自分が感じた魅力を相手に言葉で伝えられるようになる。
・イベント参加者や来館者の年齢層に合わせた話のネタを見つけられる。

授業計画・内容	
1回目	ロープワーク④～ひばり結び＆パッキング実習～ ／ 魚の分類体系⑤ ～スズキ目ハゼ亜目～
2回目	魚の分類体系⑥ ～スズキ目スズキ亜目～ ／ 魚類の繁殖形態・系統管理 ～希少魚の系統管理について～ ／ 書道～魚と書道の関係～
3回目	博多湾釣り実習②
4回目	ロープワーク⑤～もやい結び～ ／ 魚の分類体系⑦ ～スズキ目カサゴ亜目～ ／ 魚の剥製づくり① ～除肉作業～
5回目	博多湾釣り実習③
6回目	ロープワーク⑥～もやい結び～ ／ 魚の摂餌 ／ 魚の剥製づくり② ～肉詰め作業～
7回目	中間試験＆振り返り
8回目	網の編み込み(漁網作成)① ／ 魚の分類体系⑧ ～カレイ目 ～ ／ 魚の剥製づくり③ ～着色～
9回目	ロープワーク⑦～電車結び～ ／ スケッチ講座⑤ ～色鉛筆での着色～
10回目	網の編み込み(漁網作成)② ／ 魚の分類体系⑨～フグ目～ ／ 魚の剥製づくり④～ニス塗り～
11回目	ロープワーク～⑧総ざらい～ ／ 回遊
12回目	生物の採取・輸送 ／ 簡単な出張展示の方法
13回目	魚類学用語おさらい
14回目	後期期末試験と振り返り
15回目	テスト返却 ／ 解説 ／ おわりに
準備学習 時間外学習	・生物関連ニュースに目を通し、自分の考えを持つこと。
評価方法	・中間試験　　…25% ・前期期末試験 …75%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅰ (Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	細川　信行/田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日4,5時限　or　木曜日4.5時限

【授業の学習内容】

観賞魚水槽の立ち上げから飼育、メンテナンスを通して、淡水性観賞魚飼育の基本を実践的に学ぶ。

※担当教員実務経験
細川信行：aqua shop D-aquarium 代表
世界水草レイアウトコンテストの入賞経験があるなど、水槽レイアウトは世界レベルでオリジナリティ溢れる技術を持つ。
田中侑弥：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

淡水性観賞魚の基本を身に着けるとともに、器具の管理方法、メンテナンス方法、病気の治療方法を習得する。

（具体的な目標）
①水槽の設置、器具のセッティングなど飼育器具の種類・取扱いについて説明できる。
②日々の管理（換水・給餌・メンテナンス）について説明できる。
③トラブル発生時（病気の発生・魚の死亡・飼育水の汚濁・コケの発生）の対応が適切に行える。

授業計画・内容	
1回目	実習室設備説明　注意事項　各自水槽設備確認　授業内容評価方法説明
2回目	濾過装置の構造説明　配管作業
3回目	フィルター呼び水方法解説・注水作業・呼び水
4回目	メンテナンス器具取扱い方法　コケ落とし　換水作業方法
5回目	メンテナンス実践＋評価
6回目	生体導入　水合わせ方法　／エサの種類　給餌方法＋評価
7回目	飼育管理演習①
8回目	濾過装置メンテナンス方法
9回目	飼育管理演習②
10回目	コケ・シダ、活着系水草の取り扱い/魅せ方
11回目	飼育管理演習③
12回目	飼育管理演習④解説
13回目	Co2添加方法解説
14回目	飼育管理演習④+評価試験（水槽評価）
15回目	飼育管理演習⑤+Co2配管
準備学習 時間外学習	担当水槽の点検・足し水・水槽回りの清掃作業を常に行い、環境維持と美化に務める。 生体導入後は、毎日の給餌と観察を行い、生体の健康な育成に努めること。
評価方法	■授業内評価（100%）・・・出席率・ガラス面と器具清掃・底床、器具管理・生体の健康状態・水の透明度・周辺美化

【使用教科書・教材・参考書】

レイアウト制作設備・必要機材及びレイアウト素材

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅰ (Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	細川　信行/田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日4,5時限　or　木曜日4.5時限

【授業の学習内容】

観賞魚水槽の立ち上げから飼育、メンテナンスを通して、淡水性観賞魚飼育の基本を実践的に学ぶ。

※担当教員実務経験
細川信行：aqua shop D-aquarium 代表
世界水草レイアウトコンテストの入賞経験があるなど、水槽レイアウトは世界レベルでオリジナリティ溢れる技術を持つ。
田中侑弥：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

水草の育成からレイアウトの基本を理解し、観賞価値の高い水槽を制作できる。

(具体的な目標)
①水草の種類、植栽方法　管理方法を説明できる。
②水草を育成するための器具の仕組み、取扱いを理解する。
③レイアウトの基本を理解し、制作　管理ができる。

授業計画・内容	
1回目	水草レイアウトの基本構図　流木
2回目	水草レイアウトの基本構図　石組
3回目	前景中景後景　それぞれに適した水草
4回目	水草のカット　トリミング方法
5回目	トラブル時の対処方法について・コケの駆除とメンテナンスフィッシュ
6回目	メンテナンス　演習　レイアウト指導　水槽評価
7回目	メンテナンス　演習　レイアウト指導　水槽評価
8回目	メンテナンス　演習　レイアウト指導　水槽評価
9回目	メンテナンス　演習　レイアウト指導　水槽評価
10回目	メンテナンス　演習　レイアウト指導　水槽評価
11回目	メンテナンス　演習　レイアウト指導　水槽評価
12回目	メンテナンス　演習　レイアウト指導　水槽評価
13回目	メンテナンス　演習　レイアウト指導　水槽評価
14回目	メンテナンス　演習　レイアウト指導　期末評価
15回目	メンテナンス　演習　レイアウト水槽撤去　総評　評価発表
準備学習 時間外学習	担当水槽の点検・足し水・水槽回りの清掃作業を常に行い、環境維持と美化に務める。 生体導入後は、毎日の給餌と観察を行い、生体の健康な育成に努める。 水草の生育状況を観察し、状況に応じた対処を行うこと。
評価方法	■授業内評価(50%)・・・出席率・ガラス面と器具清掃・底床、器具管理・生体の健康状態・水の透明度・周辺美化 ■作品評価(50%)・・・・・・・全体的な印象度、完成度・構図評価・レイアウトの基本を押さえているかどうか・適切な水草の植栽と育成

【使用教科書・教材・参考書】

自作テキスト・レイアウト制作設備・必要機材及びレイアウト素材

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	観賞魚研究Ⅰ （ Ornamental Fish Ⅰ ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	細川 信行
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

淡水水生生物を飼育管理するうえで必要な、淡水魚種に関する知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及び浄化システムに関する知識を自作のテキストを用いて学習する。

※担当教員実務経験：aqua shop D-aquarium 代表。
世界水草レイアウトコンテストの入賞経験があるなど、水槽レイアウトは世界レベルでオリジナリティ溢れる技術を持つ。

【到達目標】

淡水水生生物飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。
基礎知識を生かし、様々な飼育法に応用できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	自己紹介。 1年間を通して行う授業内容及び方法の説明。 自作テキスト資料配布。
2回目	淡水観賞魚の概要説明。淡水観賞魚の原産地・商業養殖について。
3回目	淡水魚の分類、グループ・代表種　学名について。
4回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/水槽に関する知識。
5回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/濾過フィルター・濾過材・濾過バクテリアに関する知識。
6回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/照明器具・保温器具・底砂に関する知識。
7回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/その他設備、備品に関する知識。
8回目	ろ過の仕組み　三つのろ過（物理・生物・吸着）
9回目	ろ過サイクル（生物ろ過の重要性）
10回目	様々な水質（pH・GH・KHなど）
11回目	セットアップとメンテナンス　設置の注意点・立ち上げ方法
12回目	セットアップとメンテナンス　メンテナンス手順
13回目	セットアップとメンテナンス　給餌
14回目	前期評価及び前期振り返り①
15回目	前期振り返り②
準備学習 時間外学習	数千種にも及ぶ観賞魚の種類とその飼育方法を講義の中だけで全て把握する事は困難である為、常日頃から図鑑・飼育本などをを参照し知識の蓄積に努める。 並行して実際に観賞魚店などを訪れ、生体・飼育器具・飼育方法など生の情報収集行う。 定期的に発行されるアクアリウム専門誌などにも目を通し、最新の情報・新商品・新着魚種などにもアンテナを張る。 実際に自宅で観賞魚の飼育が行えればなお良い。
評価方法	■授業態度：20% ■筆記試験：80%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト
業界専門誌

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	観賞魚研究Ⅰ （ Ornamental Fish Ⅰ ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	細川 信行
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

淡水水生生物を飼育管理するうえで必要な、淡水魚種に関する知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及び浄化システムに関する知識を自作のテキストを用いて学習する。

※担当教員実務経験：aqua shop D-aquarium 代表。
世界水草レイアウトコンテストの入賞経験があるなど、水槽レイアウトは世界レベルでオリジナリティ溢れる技術を持つ。

【到達目標】

淡水水生生物飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。
基礎知識を生かし、様々な飼育法に応用できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	淡水魚の病気・魚病の要因　感染性・非感染性　魚の皮膚構造
2回目	淡水魚の病気/病原体別魚病解説・　白点病　（白点病のライフサイクル）
3回目	淡水魚の病気/治療方法　薬浴・加温治療・塩水浴
4回目	淡水魚の病気/治療方法（その他の魚病）　写真スライド解説
5回目	淡水魚の病気と治療/薬使用時の注意点・塩の効能
6回目	水草育成の基本　概要　分類
7回目	水草をきれいに育てる為に　器具説明　照明　底床材
8回目	水草をきれいに育てる為に　器具説明　二酸化炭素添加装置　その他
9回目	水草をきれいに育てる為に　水草の種類
10回目	水草をきれいに育てる為に　水草の下処理と植栽
11回目	水草水槽の維持管理　藻類の予防と駆除　/ 藻類発生の要因①～③
12回目	水草水槽の維持管理　藻類の予防と駆除　/ 藻類の予防と駆除
13回目	水草レイアウトの作り方/水草レイアウトの種類（ダッチ・ネイチャー・ランドスケープ）
14回目	後期評価及び後期振り返り①
15回目	後期振り返り②
準備学習 時間外学習	数千種にも及ぶ観賞魚の種類とその飼育方法を講義の中だけで全て把握する事は困難である為、常日頃から図鑑・飼育本などをを参照し知識の蓄積に努める。 並行して実際に観賞魚店などを訪れ、生体・飼育器具・飼育方法など生の情報収集行う。 定期的に発行されるアクアリウム専門誌などにも目を通し、最新の情報・新商品・新着魚種などにもアンテナを張る。 実際に自宅で観賞魚の飼育が行えればなお良い。
評価方法	■授業態度：20% ■筆記試験：80%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト
業界専門誌

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水族館総合演習 （Comprehensive Aquarium Studies）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	株式会社海の中道海洋生態科学館 飼育員 （オムニバス形式）
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	木曜日1時限

【授業の学習内容】

水族館の社会的役割、水・海水の特性、海水の循環、生物採集に関する関連法律、水族館展示技法、病気の診断と治療などの水族館の基礎知識を座学で学び、フィールド調査では調査、観察、記録方法を楽しく学び、得られた結果より考察する力を身につける。

※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館、マリンワールド海の中道の飼育員が授業を担当。

【到達目標】

水族館の社会的使命を理解し、即戦力として現場で求められる知識・技術を学ぶ。
また年間4回のフィールド調査を通じて、調査技法、生物採集方法、採集された生物の種同定、保全活動を実践しながら身に着ける。
フィールド調査は下記の点を重点項目とする。
①海浜部：曳網採集、アマモ移植・保全活動
②環境共生の森：ニッポンパラタナゴ、水生植物、水生昆虫・カスミサンショウウオ保全活動、水田稲作

授業計画・内容	
1回目	水族館の役割を理解し、説明できる。
2回目	水・海水の特性、循環の仕組み、水温躍層を理解し説明できる。
3回目	1回目　フィールド調査 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンパラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	展示生物の採集・輸送方法を説明できる。
8回目	フィールド演習を振り返り、海水の循環を説明できる。
9回目	2回目　フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンパラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	前期授業のまとめ
14回目	前期評価試験及び振り返り
15回目	調査研究活動の実践例を学び、説明できるようになる。
準備学習 時間外学習	・水族館が担う4つの役割を理解し、各園館の取り組みを調べる。 ・各授業の内容について、各自で復習を行い身につけること。
評価方法	授業態度　20% 筆記試験　80%

【使用教科書・教材・参考書】

新・飼育ハンドブック水族館編テキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水族館総合演習 （Comprehensive Aquarium Studies）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	株式会社海の中道海洋生態科学館 飼育員 （オムニバス形式）
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1時限

【授業の学習内容】

水族館の社会的役割、水・海水の特性、海水の循環、生物採集に関する関連法律、水族館展示技法、病気の診断と治療などの水族館の基礎知識を座学で学び、フィールド調査では調査、観察、記録方法を楽しく学び、得られた結果より考察する力を身につける。

※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館、マリンワールド海の中道の飼育員が授業を担当。

【到達目標】

水族館の社会的使命を理解し、即戦力として現場で求められる知識・技術を学ぶ。
また年間4回のフィールド調査を通じて、調査技法、生物採集方法、採集された生物の種同定、保全活動を実践しながら身に着ける。
フィールド調査は下記の点を重点項目とする。
①海浜部：曳網採集、アマモ移植・保全活動
②環境共生の森：ニッポンパラタナゴ、水生植物、水生昆虫・カスミサンショウウオ保全活動、水田稲作

授業計画・内容	
1回目	水族館での繁殖の取り組みについて理解し、説明できる。
2回目	水族館での病気と治療について理解し、説明できる。
3回目	3回目　フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンパラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	水族館での飼育・展示技法について理解し、説明できる。
8回目	水族館での展示・解説方法について理解し、説明できる。
9回目	4回目　フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンパラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	後期授業のまとめ
14回目	後期評価試験および振り返り
15回目	水族館の社会・教育活動について理解し、説明できる。
準備学習 時間外学習	・水族館が担う4つの役割を理解し、各園館の取り組みを調べる。 ・各授業の内容について、各自で復習を行い身につけること。
評価方法	授業態度　20% 筆記試験　80%

【使用教科書・教材・参考書】

新・飼育ハンドブック水族館編テキスト

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	水族館概論 (Introduction to the Aquarium)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	山田　重隆
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

日本動物園水族館協会が発行するテキストを基に水族館の4つの役割を理解し、「概論」「分類」「生理」「生態」「輸送」「保存」「繁殖」「餌料」「病気」について、水族館運営に必要不可欠な基礎知識を習得する。

※担当教員実務経験：学芸員。東海大学海洋学部卒業後、水族館マリーンパレス（現うみたまご）で約37年勤務。魚のショー、ジンベエザメの幼魚を飼育（世界初）、タチウオの長期飼育（当時日本最長）など魚類を担当。また、子ども水族館教室、バックヤードツアー、お泊まり水族館など様々なイベントに従事。

【到達目標】

水族館における動物飼育知識や運営面での基本を理解し、主要な項目について説明出来るようになる。
また、水族館の採用試験に対応出来る学力を培う。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、新・飼育ハンドブック水族館編3 「概論」①
2回目	新・飼育ハンドブック水族館編3 「概論」②
3回目	新・飼育ハンドブック水族館編3 「分類」①
4回目	新・飼育ハンドブック水族館編3 「分類」②
5回目	新・飼育ハンドブック水族館編3 「生理」
6回目	新・飼育ハンドブック水族館編3 「生態」
7回目	中間試験及び振り返り
8回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「繁殖」①
9回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「繁殖」②
10回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「餌料」①
11回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「餌料」②
12回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「病気」①
13回目	新・飼育ハンドブック水族館編1 「病気」②
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	前期の振り返り及び解説
準備学習 時間外学習	新・飼育ハンドブックの次回授業範囲を熟読し、疑問・不明点などを明確にして授業に臨むこと。
評価方法	中間試験30% 期末試験50% 出席20%

【使用教科書・教材・参考書】

改訂版　新・飼育ハンドブック水族館編1～5

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水族館概論 （Introduction to the Aquarium）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山田　重隆
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

日本動物園水族館協会が発行するテキストを基に水族館の4つの役割を理解し、「収集」「輸送」「保存」「展示」「教育」「広報」「施設」「危機管理」について、水族館運営に必要不可欠な基礎知識を習得する。

※担当教員実務経験：学芸員。東海大学海洋学部卒業後、水族館マリーンパレス（現うみたまご）で約37年勤務。魚のショー、ジンベエザメの幼魚を飼育（世界初）、タチウオの長期飼育（当時日本最長）など魚類を担当。また、子ども水族館教室、バックヤードツアー、お泊まり水族館など様々なイベントに従事。

【到達目標】

水族館における動物飼育知識や運営面での基本を理解し、主要な項目について説明出来るようになる。
また、水族館の採用試験に対応出来る学力を培う。

授業計画・内容	
1回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「収集」①
2回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「収集」②
3回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「輸送」①
4回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「輸送」②
5回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「保存」①
6回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「保存」②
7回目	中間試験及び振り返り
8回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示・教育」①
9回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示・教育」②
10回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示・教育」③
11回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「広報」
12回目	新・飼育ハンドブック水族館編5 「施設・危機管理」①
13回目	新・飼育ハンドブック水族館編5 「施設・危機管理」②
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	前期の振り返り及び解説
準備学習 時間外学習	新・飼育ハンドブックの次回授業範囲を熟読し、疑問・不明点などを明確にして授業に臨むこと。
評価方法	中間試験30% 期末試験50% 出席20%

【使用教科書・教材・参考書】

改訂版　新・飼育ハンドブック水族館編1～5

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	両生・爬虫類研究 (Amphibians and Reptiles)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	川中　豪
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

爬虫類および両生類についての生理や生態を理解することと、それをもとにした効果的な飼育管理方法について学ぶ。

※担当教員実務経験：ペットショップ（エキゾチックアニマル、観賞魚）飼育、観賞魚用品開発メーカーにて従事。

【到達目標】

爬虫類や両生類の管理を任されたときに、学んだ内容を活用し彼らにとっての健康的な飼育ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、爬虫類両生類の飼育されてきた歴史と現状について
2回目	爬虫類の体の仕組みや特徴について（総論）
3回目	両生類の体の仕組みや特徴について（総論）
4回目	トカゲの体の仕組みや特徴について
5回目	ヘビの体の仕組みや特徴について
6回目	カメの体の仕組みや特徴について
7回目	ワニの体の仕組みや特徴について
8回目	カエルの体の仕組みや特徴について
9回目	有尾類の体の仕組みや特徴について
10回目	爬虫類の分類について
11回目	両生類の分類について
12回目	爬虫類、両生類の市場について
13回目	前期内容の振り返りや質問解説
14回目	評価
15回目	評価振り返り
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 カラーアトラス「エキゾチックアニマル」について全体的に読んでおく。 普段から動物の関わるニュースや出来事に興味を持っておくこと。 爬虫類・両生類の書籍や飼育雑誌を購入したり図書館で借りたりして読んでおく（任意）。 爬虫類をはじめとした動物のイベント・展示即売会を見学しに行く（任意）。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、課題内容（20%）で評価する。

【使用教科書・教材・参考書】

カラーアトラス「エキゾチックアニマル」爬虫類・両生類編

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	両生・爬虫類研究 （Amphibians and Reptiles）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	川中　豪
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

爬虫類および両生類についての生理や生態を理解することと、それをもとにした効果的な飼育管理方法について学ぶ。

※担当教員実務経験：ペットショップ（エキゾチックアニマル、観賞魚）飼育、観賞魚用品開発メーカーにて従事。

【到達目標】

爬虫類や両生類の管理を任されたときに、学んだ内容を活用し彼らにとっての健康的な飼育ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、爬虫類両生類の時事について
2回目	爬虫類の飼育や取り扱いについて（総論）
3回目	両生類の飼育や取り扱いについて（総論）
4回目	トカゲの飼育や取り扱いについて
5回目	ヘビの飼育や取り扱いについて
6回目	カメの飼育や取り扱いについて
7回目	ワニの飼育や取り扱いについて
8回目	カエルの飼育や取り扱いについて
9回目	有尾類の飼育や取り扱いについて
10回目	爬虫類の病気や健康管理について
11回目	両生類の病気や健康管理について
12回目	爬虫類、両生類の文化について
13回目	後期内容の振り返りや質問解説
14回目	評価
15回目	評価振り返り
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 カラーアトラス「エキゾチックアニマル」について全体的に読んでおく。 普段から動物の関わるニュースや出来事に興味を持っておくこと。 爬虫類・両生類の書籍や飼育雑誌を購入したり図書館で借りたりして読んでおく（任意）。 爬虫類をはじめとした動物のイベント・展示即売会を見学しに行く（任意）。
評価方法	後期試験の結果（80%）に、課題内容（20%）で評価する。

【使用教科書・教材・参考書】

カラーアトラス「エキゾチックアニマル」爬虫類・両生類編

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	船舶免許対策講座 2級・特殊 （Boat Operator Ⅱ and Personal Water Craft Operator National Examination Course）	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	ボート免許センター
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な、小型船舶に対する知識を学ぶ。
小型船舶操縦士2級・特殊（水上オートバイ）免許取得を目指す。

※担当教員実務経験：株式会社ボート免許センター。（設立2006年3月24日）
事業内容/一級・二級・二級第一号限定・特殊小型船舶教習所（九小教第5号）・小型船舶操縦免許証更新
・失効再交付講習機関（操更講第17号・操失講第17号）損害保険代理業務

【到達目標】

小型船舶操縦士2級・特殊（水上オートバイ）免許取得。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション/取得免許に関して
2回目	学科教本　P13～P42　小型船舶の船長の心得および遵守事項（水上交通の特性、小型船舶の船長の心得）
3回目	学科教本　P43～P59　小型船舶の船長の心得および遵守事項(小型船舶の船長の遵守事項)
4回目	学科教本　P61～P69　交通の方法（海上衝突予防法/基本となる航法）・小テスト①
5回目	学科教本　P70～P84　交通の方法（海上衝突予防法/灯火・形象物・信号、港則法）
6回目	学科教本　P85～P102　交通の方法（海上交通安全法、湖川・特定水域での交通の方法）　運航（操縦の基本）
7回目	学科教本　P103～P116　運航（出入港・係船・錨泊/船体の安定・トリム/狭視界時の航行/曳航）・小テスト②
8回目	学科教本　P117～P132　運航（航海の基礎）
9回目	学科教本　P133～P143　運航（船体・設備・装備品、ロープの取り扱い/発航前の点検）
10回目	学科教本　P144～P164　運航（機関の取り扱い）
11回目	学科教本　P165～P183　運航（気象・海象、荒天時の操縦と避難、事故対策）
12回目	補習・練習問題・小テスト③
13回目	免許試験①
14回目	期末評価及び振り返り（免許試験②）
15回目	免許試験③
準備学習 時間外学習	授業ごとの学科教本の予習・復習を行うこと。 学科試験「過去問題」を使用しての反復学習をすること。
評価方法	定期試験の結果（50%）、小テスト（30%）、授業態度（20%）を加味して評価する。

【使用教科書・教材・参考書】

学科教本

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	船舶免許対策講座 1級 (Boat Operator Ⅰ National Examination Course)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ボート免許センター
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な、小型船舶に対する知識を学ぶ。
小型船舶操縦士1級免許取得を目指す。

※担当教員実務経験：株式会社ボート免許センター。（設立2006年3月24日）
事業内容/一級・二級・二級第一号限定・特殊小型船舶教習所（九小教第5号）・小型船舶操縦免許証更新
・失効再交付講習機関（操更講第17号・操失講第17号）損害保険代理業務

【到達目標】

小型船舶操縦士１級免許取得。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	学科教本　P7～58　上級運航Ⅰ（航海計画/救命設備/通信設備/気象・海象/荒天航法・海難防止）
3回目	学科教本　P59～86　上級運航Ⅱ（機関の保守整備/機関故障時の対処）
4回目	補習・練習問題
5回目	海図①
6回目	海図②
7回目	海図③
8回目	海図④・潮汐表の利用法
9回目	補習・練習問題
10回目	補習・練習問題
11回目	免許試験①
12回目	免許試験②
13回目	期末評価及び振り返り（免許試験③）
14回目	免許試験④
15回目	免許試験⑤
準備学習 時間外学習	授業ごとの学科教本の予習・復習を行うこと。 学科試験「過去問題」を使用しての反復学習をすること。
評価方法	定期試験の結果（70%）、授業態度（30%）を加味して評価する。

【使用教科書・教材・参考書】

学科教本

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	ダイビング演習 （Scuba Diving）	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	高濱　香
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日1時限

【授業の学習内容】

潜水計画から海況判断、トラブル回避など、ダイビングを安全に楽しむために必要な知識を学科講習で身につけ、海でスキルを身につける。

※担当教員実務経験：PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表。
オープンウォーターダイバー20年、潜水士20年、ライフセービング11年。

【到達目標】

PADIオープン・ウォーター・ダイバーCカード取得

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／アンケート及び、参加前書類作成
2回目	オープン・ウォーター　テキスト第1章
3回目	オープン・ウォーター　テキスト第2・第3章
4回目	オープン・ウォーター　テキスト第4・第5章
5回目	オープン・ウォーター　模擬テスト
6回目	オープン・ウォーター　ライセンス学科試験
7回目	オープン・ウォーター　器材紹介・セッティング紹介
8回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習①ライセンス取得講習（終日）
9回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習②ライセンス取得講習（終日）
10回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習③ライセンス取得講習（終日）
11回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習④ライセンス取得講習（終日）
12回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習⑤ライセンス取得講習（終日）
13回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習⑥ライセンス取得講習（終日）
14回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習⑦ライセンス取得講習（終日）
15回目	オープン・ウォーター　ダイビング演習⑧ライセンス取得講習（終日）
準備学習 時間外学習	水泳200mが泳げる体力をつけておくこと。
評価方法	■学校評価基準 筆記試験　70%、スキル評価　30% ■ライセンス取得基準 筆記試験　　75%以上（ライセンス学科 取得基準）、スキル評価　　100%（ライセンス実技 取得基準）

【使用教科書・教材・参考書】

PADIオープンウォーターテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	潜水士対策講座 （Preparation class for Diving Examination）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	高濱　香
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日1時限

【授業の学習内容】

潜水士試験に合格する為に、潜水士の教科書を理解して過去問を解き試験問題に慣れる。

※担当教員実務経験：PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表。
オープンウォーターダイバー20年、潜水士20年、ライフセービング11年。

【到達目標】

国家試験「潜水士」取得

授業計画・内容	
1回目	潜水士概要・全体の説明
2回目	潜水業務
3回目	潜水業務　過去問題①
4回目	潜水業務　過去問題②
5回目	送気、潜降及び浮上
6回目	送気、潜降及び浮上　過去問題
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	高気圧障害
9回目	高気圧障害　過去問題①
10回目	高気圧障害　過去問題②
11回目	関係法令
12回目	関係法令　過去問題①
13回目	関係法令　過去問題②
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	潜水士　過去問題
準備学習 時間外学習	使われている用語や仕組みが難しいので、復習が必要。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、授業態度と参加度（20%）を加味して評価する。

【使用教科書・教材・参考書】

潜水士テキスト

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	企業プロジェクトⅠ（Company Project Ⅰ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	各企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案をできるようになる。
・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。
・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。
・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。
・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。

授業計画・内容	
1回目	企業プロジェクトとは①　～企業プロジェクトの意義や目的・目標を明確にする～
2回目	企業プロジェクトとは②　～過去の企業プロジェクトの事例紹介～
3回目	企業プロジェクトの進め方　～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	オリエンテーション①　～企業から課題を頂く～
5回目	オリエンテーション②　～質疑応答～
6回目	企画立案①　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い①～
7回目	企画立案②　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い②～
8回目	企画立案③　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い③～
9回目	企画立案④　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い④～
10回目	企画立案⑤　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い⑤～
11回目	現地視察・調査①
12回目	現地視察・調査②
13回目	現地視察・調査③
14回目	現地視察・調査④
15回目	現地視察・調査まとめ
準備学習 時間外学習	・各自（各班）で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

現場での施設備品、道具類

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	企業プロジェクトⅠ（Company Project Ⅰ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	各企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案をできるようになる。
・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。
・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。
・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。
・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。

授業計画・内容	
1回目	プランニング・コミュニケーション①-1
2回目	プランニング・コミュニケーション①-2
3回目	プランニング・コミュニケーション①-3
4回目	プランニング・コミュニケーション①-4
5回目	プランニング・コミュニケーション①-5
6回目	プレゼンテーション①
7回目	プレゼンテーション②質疑応答
8回目	プランニング・コミュニケーション②-1
9回目	プランニング・コミュニケーション②-2
10回目	プランニング・コミュニケーション③-3
11回目	イベント運営・商品化①
12回目	イベント運営・商品化②
13回目	イベント運営・商品化③
14回目	まとめ①
15回目	まとめ発表
準備学習 時間外学習	・各自（各班）で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

現場での施設備品、道具類

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	進級課題	必修選択	必修	年次	1	担当教員	矢作　友規
	（ Level Advancement Study ）	授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面・遠隔授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。

【到達目標】

学習成果（知識・技術）をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。

授業計画・内容	
1回目	進級課題とは①　～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方　～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定　～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習①　～自分（班）のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習②　～途中経過の報告～
7回目	実践学習③　～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備①　～パワーポイント作成～
9回目	発表準備②　～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③　～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④　～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤　～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り　～各自（班内）で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自（各班）で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	業界研修 （Business　Internship）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	90 （6）	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。
・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。
・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。
・自らの「キャリア」をデザインできる。

授業計画・内容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表（20%） これらを総合的に判断して評価

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	特別講義＆見学 （Special Lecture）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・動物業界で必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
・動物業界で必要な人間力を理解し、身に付ける。
・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授業計画・内容	
1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （Global Communivcation）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	120 （8）	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 1時限、金曜日 1時限

【授業の学習内容】

好きな事について話すことができる。商品のレビューを読み、書くことができる。
平日、週末のアクティビティについて話すことができる。日常のアクティビティについてのレポートを読む、また書くことができる。
道順について尋ねる、また教えることができる。場所についての特徴について読み、書くことができる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

授業計画・内容			
1回目	個人的な情報をたずねる・説明する表現を学ぶ。Be 動詞を学ぶ、復習する。疑問代名詞[What]の使い方を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く。大文字、ピリオドの使い方を学ぶ。	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	「はい」「いいえ」で答える質問における [Is / Are]の使い方を学ぶ。家族について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	年齢、誕生日に関する表現を学ぶ言い直すに関する言葉を学ぶ。	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」	オンデマンド	
6回目	[it is]の使い方を学ぶ。家具について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	ホームシェアについてのメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	「現在形」陳述文を学ぶ (I, you, we)。好きな事について話す。	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	連絡を取り合う方法について話す。相手の話を聞いていることを示す。	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」	オンデマンド	
11回目	「現在形」疑問文（yes/no / WH-question)を学ぶ。時間・ルーティンについて話す。	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	日常のアクティビティについてのレポートを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[There (is, are), (a lot, some no)]の使い方を学ぶ。町にある場所について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	道順について尋ねる、また教える際に使う表現を学ぶ情報を確認する。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE1

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （Global Communivcation）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	120 （8）	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 1時限、金曜日 1時限

【授業の学習内容】

週末に向けたアウトドア活動の計画を立てることができる。オンラインでの招待状を読み、書くことができる。
過去についての場所や出来事、過去の人について述べることができる。思い出の品についての記事やメールを読む、また書くことができる。
食べた食事について話すことができる。レストランのレビューを読む、また書くことができる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

授業計画・内容			
1回目	「現在進行形」疑問文を学ぶ旅行について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	最近の出来事についてのブログ記事を読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	[Can / Can't]（能力）を使う陳述文・疑問文を学ぶ。自身のスキルや能力について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	自分の意見を述べる。自分はある仕事の適任者であることを説明する。	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて話す」	オンデマンド	
6回目	[like to, want to, need to, have to]の使い方を学ぶ。使い分けがわかる旅行計画を立てる。	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	旅行ガイドを読む、また場所の説明を書く。	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[be going to]（陳述文）の使い方を学ぶ。週末に向けたアウトドア活動の計画について話す。	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	あることをやってはいけない理由を説明する。	オンデマンド	
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画し、発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	「過去形」（was / were)の疑問文を学ぶ。色、記憶について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	思い出の品についての記事やメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	「過去形」の陳述文を練習する。スナック、軽食について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	[so / really]（強調する）の使い方を学ぶ。食べ物・飲み物を注文する。	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE1

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	海外実学研修 （Overseas Practical Training）	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	現地各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 （ 4 ）	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定

【授業の学習内容】

国際教育の一環として、実際に海外での施設見学、特別講義、自由行動を通し国際性を身に付け、グローバル化する現代社会で活躍できる人材育成を目的とする。

※担当教員実務経験：海外における現地実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・最先端の動物、環境に関わる知識や技術を理解し身に付ける。
・これからの業界に必要な考え方を理解し身に付ける。
・世界における日本の立場を理解する。
・自身のキャリアをデザインする。

授業計画・内容	
1回目	訪問国、訪問施設を調べまとめる、班ごとに発表する
2回目	訪問国での施設見学、特別講義
3回目	訪問国での施設見学、特別講義
4回目	訪問国での施設見学、特別講義
5回目	訪問国での施設見学、特別講義
6回目	訪問国での施設見学、特別講義
7回目	訪問国での施設見学、特別講義
8回目	訪問国での施設見学、特別講義
9回目	訪問国での施設見学、特別講義
10回目	訪問国での施設見学、特別講義
11回目	訪問国での施設見学、特別講義
12回目	訪問国での施設見学、特別講義
13回目	訪問国での施設見学、特別講義
14回目	研修ノートのまとめ、レポート作成
15回目	海外実学研修の振り返り、発表、まとめ
準備学習 時間外学習	・【事前学習】訪問国、訪問施設を調べまとめる ・【事後学習】訪問施設を研修ノート及びレポートにまとめる
評価方法	・研修ノート、レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の海外実学研修ノート

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	イベント運営 （Event Management）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各イベント実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・企画立案、運営ができるようになる。
・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
・接客を知り、実践できるようになる。
・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
・予算管理を実践し習得する。
・スケジューリングを理解し、実践できる。

授業計画・内容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備（50%） ・レポート(50%)

【使用教科書・教材・参考書】

過去のイベント資料

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	特別課外活動 （Club Activities）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各クラブ顧問
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学友会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。

【到達目標】

・チームワークを身に付ける。
・計画性を身に付ける。
・予算管理を身に付ける。
・マネジメントを理解し身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ボランティア活動 （Volunteer Work）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。

※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。
・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去のボランティア活動報告書

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	資格取得講座 （Seminar for a Qualification）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	矢作　友規
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。

【到達目標】

・各検定試験、資格試験の合格

授業計画・内容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の各検定、資格教本

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅡ （ Carrier PlanningⅡ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢作　友規
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限

【授業の学習内容】

将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。

【到達目標】

■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。
■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　1年間のキャリアプランニングを理解する
2回目	コミュニケーショングループワーク：グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
3回目	コミュニケーショングループワーク：グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
4回目	業界研究 / 成功した先輩たちの事例①　コミュニケーショングループワーク：グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
5回目	業界研究 / 成功した先輩たちの事例②　コミュニケーショングループワーク：グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
6回目	業界研究 / 成功した先輩たちの事例③　学園祭について①
7回目	キャリアデザイン / 合同企業説明会に向けて①、チームマネジメント/学園祭について②
8回目	キャリアデザイン / 合同企業説明会に向けて②、チームマネジメント/学園祭について③
9回目	業界研究 / 合同企業説明会振り返り　チームマネジメント/学園祭振り返り
10回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて①　インターンシップ・就職活動における姿勢
11回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて②　インターンシップ・就職活動における姿勢
12回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて③　インターンシップ・就職活動における姿勢
13回目	キャリアデザイン / 夏季休暇振り返り　チームマネジメント / スポーツフェスタイベント内容の話し合い（ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う）
14回目	チームマネジメント / スポーツフェスタイベント内容の話し合い（ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う）
15回目	チームマネジメント / スポーツフェスタイベント内容の話し合い（ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う）
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨むこと。
評価方法	1. 授業態度 （30%） 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの　（50%） 3. 出席 （20%）

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト、オリジナルPowerPoint

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅡ （ Carrier PlanningⅡ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢作　友規
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限

【授業の学習内容】

将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。

【到達目標】

■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。
■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　後期のキャリアプランニングを理解する
2回目	業界研究/チームマネジメント　研修前の調べ学習①
3回目	業界研究/チームマネジメント　研修前の調べ学習②
4回目	業界研究/チームマネジメント　研修前の調べ学習③　発表と共有
5回目	業界研究/チームマネジメント　研修前の調べ学習④　発表と共有
6回目	業界研究/チームマネジメント　研修後の振り返り①
7回目	業界研究/チームマネジメント　研修後の振り返り②　発表と共有
8回目	チームマネジメント / 進級課題制作①、We are ECO②
9回目	チームマネジメント / 進級課題制作②、We are ECO②
10回目	チームマネジメント / 進級課題制作③、We are ECO③
11回目	チームマネジメント / 進級課題制作④、We are ECO④
12回目	チームマネジメント / 進級課題制作⑤、We are ECO⑤
13回目	チームマネジメント / 進級課題制作発表①
14回目	チームマネジメント / 進級課題制作発表②
15回目	1年間振り返り
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨むこと。
評価方法	1. 授業態度 （30%） 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの　（50%） 3. 出席 （20%）

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト、オリジナルPowerPoint

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	ホスピタリティ（ hospitality ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	松岡　尚美
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	火曜日4or5時限

【授業の学習内容】

日本ホスピタリティ推進協会「ホスピタリティ・コーディネータ」資格を取得した講師から、教本をベースにホスピタリティのフレームを理解し、サービスとホスピタリティの違いや対応力、ホスピタリティ・マインドを学ぶ。様々な業界の事例を参考にし、現場で自ら考え実践できることを目指す。

※担当教員実務経験：藤田観光株式会社ワシントンホテル　宿泊部フロント課勤務。
2017年3月　日本ホスピタリティ推進協会「ホスピタリティ・コーディネータ」資格取得。

【到達目標】

①理論と実践の両面からホスピタリティを理解し、マインドとスキルを習得する。
②日本ホスピタリティ推進協会「アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネータ」資格取得。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：講義の説明　感動を与えるホスピタリティ（京王プラザホテルのホスピタリティ動画視聴）
2回目	サービスとホスピタリティの違いと語源　日本のおもてなし文化
3回目	5つ星ホテルで働くコンシェルジュの最上級のおもてなし、顧客目線に立つことの理解
4回目	ホスピタリティの実践①　笑顔の作り方、身だしなみ、立ち居振る舞いを身につける
5回目	ホスピタリティの実践②　話し方、効果的な傾聴、言葉遣いなど対応力を磨く
6回目	顧客ロイヤルティとホスピタリティの関係性
7回目	組織と社員（従業員）のホスピタリティ、「ゴールデンサークル理論」から学ぶリーダーシップ
8回目	ご高齢や障がいのある方への対応と気遣い
9回目	異文化コミュニケーション　「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションを理解し異文化適応力を身につける
10回目	クレームが起きる原因とお客様心理を理解し対応力を身につける
11回目	★レポート提出日　　ホスピタリティ産業に求められるQSCを理解する
12回目	ハラスメントやコンプライアンスについて正しく理解する
13回目	SDGsについて理解する
14回目	クループディスカッション　：「新しいテーマパークを作ろう」
15回目	前期講義のまとめ
準備学習 時間外学習	ホスピタリティ・マインドを身につけるためには、「相手の立場に立つ」ことや「相手を思いやる」ことを意識し行動することで身についてくる。 また、ホスピタリティに関する書籍を自ら進んで読むことや感動体験を積むなど、感性を磨く。 授業前後での予習と復習を必ず行うこと（ホスピタリティ・コーディネータ教本の熟読）。
評価方法	「ホスピタリティ実践レポート」（2,000字以上/Word作成）・・・・締め切り厳守。 ※資格認定と授業評価に必要なレポートですので、必ず提出してください。 ※レポート作成にあたって、書き方やWordの書式など細かいルールがあります。講義の中で丁寧に説明しますのでルールは必ず守ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

【教科書】ホスピタリティ・コーディネータ教本/日本ホスピタリティ推進協会
【参考書】図解版ホスピタリティの教科書/林田正光　著

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	ホスピタリティ（ hospitality ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	松岡　尚美
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4or5時限

【授業の学習内容】

日本ホスピタリティ推進協会「ホスピタリティ・コーディネータ」資格を取得した講師から、前期に習得したことを踏まえ、ビジネスシーンで柔軟に対応できる思考と動きプラス、ホスピタリティ・マインドを実践形式で理解を深めていき、「わかる」から「できる」ようになる。

※担当教員実務経験：藤田観光株式会社ワシントンホテル　宿泊部フロント課勤務。
2017年3月　日本ホスピタリティ推進協会「ホスピタリティ・コーディネータ」資格取得。

【到達目標】

ワンランク上のホスピタリティ・マインドを習得し、現場の即戦力になる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：講義の説明　前期講義を振り返り、ホスピタリティの本質を理解する
2回目	ホスピタリティの実践に必要な3つのステップ
3回目	笑顔トレーニング
4回目	ホスピタリティを実践している人・企業①
5回目	ホスピタリティを実践している人・企業②
6回目	感動品質のサービス①　顧客満足度向上
7回目	感動品質のサービス②　サービスのプロフェッショナル
8回目	感動品質のサービス③　会話をする力をつける
9回目	様々なクレームを想定し、ホスピタリティ・マインドを発揮する（グループワーク）①
10回目	様々なクレームを想定し、ホスピタリティ・マインドを発揮する（グループワーク）②
11回目	日本の贈り物のマナー
12回目	心をつかむ手紙の書き方
13回目	ホスピタリティ・マインドの育て方
14回目	評価週
15回目	後期講義のまとめ　社会人に向けて実践していくこと
準備学習 時間外学習	インプット（知識の習得）からアウトプット（考えて実践）へ。 求められているスキルが変化しているので、「自分を変えるチャンス」だと思って常に高い意識を持つこと。
評価方法	筆記試験・・・100%

【使用教科書・教材・参考書】

【教科書】ホスピタリティ・コーディネータ教本／日本ホスピタリティ推進協会
【参考書】図解版ホスピタリティの教科書／林田正光　著
グローバル人材ビジネス実務検定テキスト／一般財団法人グローバル人材キャリア支援協会

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアサポートアップ （ Improving Career Skills ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中山　麻見/中村　里佳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日2時限

【授業の学習内容】

就職活動の基本である自己分析と企業研究の必要性を学び、志望動機、自己PRを完成させ、履歴書を自立して作成できるようになる。
また発声練習やグループワークを通して、効果的な自己表現を可能にし、自信を持って面接に挑み、結果を手にしていく。

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より就職講座・コミュニケーション講座等に従事している講師を招き、授業を実施。

【到達目標】

・自己分析（理解）によって、自分の強み、弱みを効果的に伝えられるようになる。
・履歴書、エントリーシートが自立して書けるようになる。
・自己分析、企業研究によって、自分の目指す企業のマッチングが可能になり、適切な面接対策ができる。
・個人面接、集団面接など、様々なケースを想定し、ロールプレイングを通じて、自己表現に自信が付く。
・小論文の基本的書き方を習得する。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　就職活動において現在地を確認し、ゴール設定ができる
2回目	自分の適性を知る　分析ツールを使って強みの原点を把握できる
3回目	自己分析の基礎①希望業種に内定するために現状を知り、就職活動の全体像を掴むことが出来るようになる
4回目	自己分析の基礎②希望業種に内定するために現状を知り、就職活動の全体像を掴むことが出来るようになる
5回目	企業研究・業界分析の仕方について①　グループワークを行い広い視野を養うことができる
6回目	履歴書の書き方　　形式を遵守した上で、自分らしい履歴書が書けるようになる。
7回目	面接対策①　面接の全体像が把握できる
8回目	面接対策②　見た目・中身の両方に対する戦略が分かる
9回目	面接対策③　模擬面接　お互い分析、フィードバックすることで客観的に自分を把握することができる
10回目	WEB面接対策
11回目	適性検査対策
12回目	論理的文章の書き方　作文・小論文　①
13回目	論理的文章の書き方　作文・小論文　②
14回目	試験
15回目	総まとめ
準備学習 時間外学習	配布物で予習・復習を行うこと。
評価方法	試験80%　提出物20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２０年度　シラバス

科目名（英語表記）	社会人基礎力 (Essential Competencies for the Working Adult)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中村　里佳
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		2	曜日・時限	月曜日 2時限

【授業の学習内容】

会社が求める人材像を明確にすることで、働くことの意味を理解し、ビジネスパーソンに必要な考え方・行動・スキルを身に付けることができるよう以下3つのスキルを学習する。
・考える力、論理的思考能力
・組織やPDCA、ホウレンソウなど、基本的な企業のしくみや働き方
・コミュニケーションスキル、ビジネスマナー

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より就職講座・コミュニケーション講座等に従事している講師を招き、授業を実施。

【到達目標】

学生から社会人へと自己意識を変革させる。
働くことの意味を理解し、ビジネスパーソンに必要な考え方・行動・スキルを身に付けることができるよう、以下3つのスキルを習得する。
後期以降の就職活動に役立つ能力を身に付ける。
・考える力、論理的思考能力
・組織やPDCA、ホウレンソウなど、基本的な企業のしくみや働き方
・コミュニケーションスキル、ビジネスマナー

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／アイスブレーキング、自己紹介、ゴール提示、会社が求める人材とは何か
2回目	社会人とは／社会人と学生の違い、ビジネスパーソンに必要なこと
3回目	考える力・書く力／考える・書く力を養い論理的思考能力を身に付ける、マインドマップ作成
4回目	企業・組織とは／組織のしくみ、PDCA、チームワーク、指示系統
5回目	ビジネスマナー
6回目	企業・組織とは／報告・連絡・相談
7回目	企業・組織とは／報告・連絡・相談
8回目	企業・組織とは／リーダーシップとは何か、組織での立ち位置、目標設定
9回目	コミュニケーションスキル／コミュニケーションスキルの磨き方（傾聴）
10回目	コミュニケーションスキル／コミュニケーションスキルの磨き方（傾聴）②
11回目	発信力　自分の意見をわかりやすく伝える力
12回目	発信力　自分の意見をわかりやすく伝える力　②
13回目	意見の違いや立場の違いを理解する力
14回目	試験
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておくこと。
評価方法	試験80%　授業内評価（発表など）20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （Global Communivcation）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	120 (8)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限、水曜日4時限、木曜日1-3時限、金曜日1・3時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、
また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

知人・家族について話すことができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。毎日していることについて話すことができる。
ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。今していることについて話すことができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、
また書くことができる。招待する、またそれに応えることができる。イベントへの招待を読む、また書くことができる。人生の中での過去のイベントに
ついて話すことができる。新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書くことができる。
店内で欲しいものについて述べることができる。新しい商品の説明を読む、またVlog（ビデオブログ）のためのスクリプトを書くことができる。

授業計画・内容			
1回目	所有代名詞(whose)を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなメールを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	習慣・ルーティンについて質問する。[Wh-question]を練習する	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	繰り返しを求める表現を学ぶ。意思疎通に問題があったことを説明する	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
6回目	「現在進行形」「単純現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	サービス業界の会社へのメッセージを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	将来のことを説明する際に使う「現在進行形」を学ぶ。将来のプランについて話す	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	招待する、招待に応える表現を学ぶ。招待を断る理由を説明する	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「プレゼントを選ぶについて」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	「過去形」（陳述文の否定形；疑問文）を復習する	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書く	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[be going to]を復習する買い物に行くことについて会話する	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	店内で欲しいものについて述べる。物事の言い方を英語で聞く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE2

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	グローバルコミュニケーション（Global Communivcation）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(8)	曜日・時限	火曜日1時限、水曜日4時限、木曜日1-3時限、金曜日1・3時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、
また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

レストランで頼みたいものについて説明することができる。ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書くことができる。
提案をする、また提案をうけることができる。海外生活についてのアドバイスを読む、また書くことができる。意見を尋ねる、また述べることができる。
広告を読む、また写真の説明を書くことができる。将来の予想を立てることができる。アドバイスについてのメールを読む、また書くことができる。
したことがあること、ないことについて話すことができる。インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書くことができる。
天気について話すことができる。場所についての説明を読むことができる。方法についての説明リストを書くことができる。

授業計画・内容			
1回目	キッチンカーをデザインする「動詞型」を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書く	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	[if / when]の使い方を学ぶ。自分の町で何をするかについて話す	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	「問い返し疑問文」を学ぶ。提案をする、また提案をうける表現を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「短期旅行のプランを立てる」	オンデマンド	対面授業と連動
6回目	「形容詞の最高級」を学ぶ。写真に写った人について話す	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	広告を読む、また写真の説明を書く	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[have to]の使い方を学ぶ。職場での危険を回避することについて話す	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	[It feels like (it' s like)]を使い、健康問題について話す；健康問題についてアドレスをもらう	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「リアリティ番組を計画し、発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	ソーシャルメディア（ネット）生まれの動詞を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書く	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[be like]を使い、天気について話す	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	道を聞く、道順を教える際に使う表現を学ぶ。言い改める際に使う表現を学ぶ、復習する	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE2

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	水生生物研究 (Aquatic Biology)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	渕上 信好
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日or金曜日3時限

【授業の学習内容】

1. 生体を使った授業。画像・文よりも「命ある実物」から学び感じる。 基礎知識の意味をより分かり易く繰り返し提示する。
2. 記録を残す習慣を付けたいので、配布したスケッチブックの講師チェックは評価対象とする。
3. 前期は主として河川生物中心。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。
NPO直方川づくりの会：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①無脊椎動物の大まかな（門・目レベル）分類ができる。
②生体スケッチによってそのカタチを自分の体に入る（体が覚える）ようになる。
③採集地データから生息環境がイメージできる。
④最新の情報（水生生物の時事ネタ）に関して、自分の考えが言えるようになる。
⑤生物を使った環境教育ネタを体験しておく。

授業計画・内容	
1回目	①②③河川水生昆虫類 1（カゲロウ・カワゲラ）
2回目	①②③河川水生昆虫類 2（トンボ・その他）
3回目	①②③淡水エビ・カニ類 1 （ヌマエビ類・テナガエビ類）
4回目	①②③淡水エビ・カニ類 2 （サワガニ・モクズガニ） ⇒ ④時事ネタ 1
5回目	①②③水中カメムシ類 （タイコウチ・オオアメンボ） ⇒ ⑤環境教育への展開（水の凝集・凝着・ベッコウ飴）
6回目	①②③水生甲虫類 （ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシ・ヒメドロムシ）
7回目	■評価試験および振り返り
8回目	①②③圃場の三大生きた化石 1 （ホウネンエビ） ⇒ ④時事ネタ 2
9回目	①②③圃場の三大生きた化石 2 （カブトエビ・カイエビ） ⇒ ⑤圃場の治水面の話し（たんぼダム）
10回目	①②③奈多漁港のロープ付着生物 総合分類
11回目	①②③淡水二枚貝 （シジミ類・ドブガイ）
12回目	①②③淡水巻貝 （タニシ類・カワニナ・スクミリンゴガイ）
13回目	①②③淡水の節足・軟体動物門のまとめ
14回目	■評価試験および振り返り
15回目	ここまでの生物の学生リクエストテーマ⇒希望種を採集しテーマとする
準備学習 時間外学習	参考書：フィールド総合図鑑 川の生物 山海堂 参考図鑑：日本産水生昆虫図説 東海大学出版会 参考図鑑：世界大博物大辞典 別巻2 水生無脊椎動物 平凡社 生物の範囲が広いので本校図書館の書籍・雑誌を乱読のこと。
評価方法	●中間試験 25% ●期末試験 25% ●ノート点 50%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルレジュメおよび資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	水生生物研究	必修選択	必修	年次	2	担当教員	渕上　信好
	(Aquatic Biology)	授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	月曜日or金曜日3時限

【授業の学習内容】

1. 採集生物を淡水産から海水産の割合を多くして、総合的な分類と生息環境および生態系へと導く。
2. 海獣類の餌や人の食糧となる魚類の寄生虫は、濃縮毒性実験を実施。
3. 両生類やコケ植物等のAQAペットショップの商品となっている生物も採集可能な範囲で取り上げる。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。
NPO直方川づくりの会（河川環境教育・ビオトープ管理）：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①自分の興味のある水生生物（2種でよい）について、人が食い付く話ができる。
②無脊椎動物の大まかな分類ができる。
③対象生物の生息場所・採集方法・運搬方法が8割程度は分かる。
④生物種に応じた標本の作り方・危険な薬品等の知識が分かっている。
⑤授業ノートが習慣になっている。

授業計画・内容	
1回目	①イカ・タコ類　1（基礎編）　●濃度計算（水族館採用試験対策）
2回目	①イカ・タコ類　2（解剖・雑学・利用）　●濃度計算（水族館採用試験対策）
3回目	①②④クラゲ　2　（展開）
4回目	②③④奈多漁港ロープ付着生物　総合分類　2
5回目	①②④タイドプールの棘皮動物　（ウニ・ヒトデ・ナマコ）
6回目	①両生類　（アカハライモリ・カスミサンショウウオ）
7回目	■評価試験および振り返り
8回目	②③④　干潟の無脊椎動物　総合分類　●環境数学（水族館採用試験対策）
9回目	①④寄生虫（アニサキス・ニベリン条虫）
10回目	①②③海岸打ち上げ生物　ピンポイント解説
11回目	③苔類
12回目	①④海岸打ち上げ生物　総合分類　（海藻をメインに）
13回目	④福岡県侵略的外来種の講師フィールド調査報告
14回目	■評価試験および振り返り
15回目	①②③④⑤本年度の特筆採集生物のまとめ
準備学習 時間外学習	参考図巻：日本産水生昆虫図説　東海大学出版会 参考書：フィールド総合図鑑　川の生物　山海堂 参考図鑑：世界大博物図鑑　別巻2　水生無脊椎動物　平凡社 その他、生物の範囲が広いので本校図書館の書籍・雑誌を乱読のこと。
評価方法	●中間試験　25% ●期末試験　25% ●ノート点　50%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルレジュメおよび資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	魚類学実験	必修選択	必修	年次	2	担当教員	渕上　信好
	(Fish Laboratory)	授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	月曜日or木曜日4・5時限

【授業の学習内容】

1. 講師採集生物を用いた実習・演習と板書講義を平行して実施。講義は1年次「魚類研究」の復習を含む。
2. 実習・作業は、個人・グループ単位での細かい指導と繰り返し（慣れる）が基本。最後までやり遂げるコトを良しとする。
3. 学生の行動が落ち着いた時点（安全性）で、徒歩で行ける博多湾にて野外実習を行う。
4. 「水生生物研究」と同様にメモの習慣を付けさせたいため、ノートチェックは基本的に毎回実施。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。
NPO直方川づくりの会：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①魚類検索図鑑を7割程度使いこなすことができる。
②授業後の片付けの重要性が分かり、作業工程を逆算して考える事ができる。
③実験や作業で使う道具は、必要に応じて自分で考案・制作する意識を持つ事ができる。
④目的に応じた解剖の段取りができる。
⑤目的・対象魚類に適合した標本作りが6割程度説明できる。

授業計画・内容	
1回目	①魚類検索スケッチ中級　その1 （プロポーションと部位計測） ③竹ピンセットの作成
2回目	①魚類検索スケッチ中級　その2 （細部スケッチ・計数データ記入） ③竹ピンセットの作成
3回目	②④⑤透明骨格標本　その1（理論・行程・薬品解説）　＋　「1・2回目」の仕上げ
4回目	②④魚類解剖の基本　その1 （主目的を絞る⇒準備⇒実施⇒修正⇒まとめ⇒片付け） ■⑤透明骨格標本作業継続
5回目	③②④骨格図の模写と魚類の重要な骨摘出（耳石・肩甲骨・烏口骨） ■⑤透明骨格標本作業継続
6回目	①河川地点採集サンプル総合分類河川中上流　その1 （魚類生息環境・出現種一覧表） ■⑤透明骨格標本作業継続
7回目	■評価試験および振り返り　＋　ここまでの中途作業の仕上げ
8回目	②③博多湾・博多埠頭での釣り実習　その1（イベント企画者の立場　＋　現場ロープワーク）
9回目	⑤魚類剥製 （概説・作業）　＋　①検索用サンプルの展翅（ホルマリン標本用として）
10回目	②③後期に向けた魚類アート入門（毛筆画、アクリルペイント、米粉粘土）
11回目	②④魚類解剖　その2（目的・準備・麻酔・実施・処理・まとめ・展開・片付け）
12回目	①河川地点採集サンプル総合分類　2　河口域 （魚類生息環境・出現種一覧表の作成）
13回目	②④大型魚類胃内容分析
14回目	■期末試験　＋　ここまでの補足作業
15回目	学生希望テーマ授業
準備学習 時間外学習	参考図書：日本産魚類検索　一全種の同定一　東海大学出版会 その他、本校図書館の魚類関連図書・雑誌を乱読しておくこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	●中間試験　25% ●期末試験　25% ●ノート点　50%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルレジュメおよび資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	魚類学実験 (Fish Laboratory)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	渕上　信好
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日or木曜日4・5時限

【授業の学習内容】

1. 前期同様に採集および購入魚類を用いた実習と板書講義の様式とするが、作業の割合を大きくする。
2. 同じ場所での別作業となるので、時間設定、道具の使い回し、人の導線など「段取力」を指導する。
3. 実験・作品制作の作業は、正しい失敗を繰り返しながら最後まで仕上げる事を目標とする。
4. 魚類から派生する「モノづくり」は、職場でのイベント等における発想・企画・経費計算に役立てたい。
5. 研修・早期就職で授業参加困難な学生は、前倒しで計画を立て作品提出へと指導して行く。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。
NPO直方川づくりの会（河川環境教育・ビオトープ管理）：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①魚類から派生する作業について「知っている」ではなく「やったコトがある」で話すことができる。
②実験等において「段取り力」が一定のレベルに達している。
③様々な製品を見て「用」「強」「美」の観点で評価できるようになる。
④この授業を通して様々な視点から魚類を語る事ができる。
⑤実験や作業で使う工具・用具を安全に使いメンテナンスがそこそこできる。

授業計画・内容	
1回目	①②④⑤魚類麻酔薬・魚病薬の研究 （市販薬品の検討と個人用自作）
2回目	④果物アート （雨プログラムの組み方） ■米粉粘土アート 継続
3回目	①②③アクリル加工 （透明骨格標本・剥製ケース・野外観察写真撮影用ケースおよび小型水槽） ■米粉粘土アート 継続
4回目	①②透明骨格標本 ２ （継続作業のまとめとして）
5回目	①②③⑤塗装の基本知識と実践作業 （水性・油性・漆） ■米粉粘土アート 継続
6回目	①②④⑤秋の釣り大会 in 博多埠頭 （学生企画）
7回目	①④発泡スチロール加工 （多用途） ＋ 竹素材の魚類ハンドリング用品加工（小型のタモ網ほか）
8回目	①魚類地点調査サンプル総合分類（１年次の「魚類研究」総まとめ）
9回目	①④ルアー製作 ■米粉粘土アート 継続
10回目	①②④魚類デザインのパンケーキ （食育イベントのバリエーションとして）＋ 燻製（キャンプメニューとして） ■ルアー製作 継続
11回目	①②③④魚類注連縄づくり （圃場生物環境・藁素材・伝統文化） ■ルアー製作 継続
12回目	①②④UVレジン （ 義眼・魚類部位を封入したアクセサリー）と剥製
13回目	■作品提出 追い込み （間に合いそうにない学生の分まで協力して作成）
14回目	■作品提出 受付締め切り （早期就職の学生の分まで協力して作成）
15回目	学校備品の修理と教室の大掃除 （感謝をこめて楽しそうに掃除をする）
準備学習 時間外学習	参考図書：日本産魚類検索 ―全種の同定― 東海大学出版会 その他、本校図書館の魚類関連図書・雑誌を乱読しておくこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	●作品提出 50% ●ノート点 50%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルレジュメおよび資料

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水生生物飼育管理Ⅱ （ Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平 隼人/田中 侑弥
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3or4時限　&　金曜日3or4時限

【授業の学習内容】

実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。

※担当教員実務経験：
　平　隼人：サカナヤデザイン代表。アクアリウムデザイナー。
　田中侑弥：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

海水水槽オーバーフローシステム水槽を中心とした取り扱い及び管理法を習得する。
チームのメンバーの作業進捗状況を把握し、効率的に水槽メンテナンスを行う。
トラブルが起きた際の対処方法を考え、行動する。

授業計画・内容	
1回目	各水槽システム取り扱い説明・人工海水の作り方
2回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
3回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
4回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
5回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
6回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
7回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
8回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
9回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
10回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
11回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
12回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
13回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
14回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
15回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。 水生生物の飼育法は様々なので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるように。 できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察すること。
評価方法	■授業内評価　80% ■授業出席率　20%

【使用教科書・教材・参考書】

第一・第二アクア実習室、海水魚水槽

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水生生物飼育管理Ⅱ （ Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平　隼人/田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3or4時限　&　金曜日3or4時限

【授業の学習内容】

実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。

※担当教員実務経験：
　平　隼人：サカナヤデザイン代表。アクアリウムデザイナー。
　田中侑弥：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

海水水槽オーバーフローシステム水槽を中心とした取り扱い及び管理法を習得する。
チームのメンバーの作業進捗状況を把握し、効率的に水槽メンテナンスを行う。
トラブルが起きた際の対処方法を考え、行動する。

授業計画・内容	
1回目	各水槽システム取り扱い説明・人工海水の作り方
2回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
3回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
4回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
5回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
6回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
7回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
8回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
9回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
10回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
11回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
12回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
13回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
14回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
15回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。 水生生物の飼育法は様々なので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるように。 できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察すること。
評価方法	■授業内評価　80% ■授業出席率　20%

【使用教科書・教材・参考書】

第一・第二アクア実習室、海水魚水槽

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	観賞魚研究Ⅱ （ Ornamental Fish Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	田中 侑弥
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限

【授業の学習内容】

海洋生物に関する知識及び、飼育用品・機材・設備を学ぶ。
またそれらを応用して、濾過槽別に水槽の立ち上げやメンテナンスを学び、実習する。

※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

海洋性魚類・無脊椎動物・海藻類の飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、シラバス説明
2回目	水の化学と海洋学
3回目	淡水生物と海洋生物の違い①
4回目	淡水生物と海洋生物の違い②
5回目	アクアリウムにおける海洋生物の種別解説①
6回目	アクアリウムにおける海洋生物の種別解説②
7回目	アクアリウムにおける海洋生物の種別解説③
8回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法①
9回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法②
10回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法③
11回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法④
12回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑤
13回目	期末試験範囲振り返り
14回目	期末試験と振り返り
15回目	期末試験返却、前期まとめ
準備学習 時間外学習	数千種にも及ぶ海水魚の種類とその飼育方法を講義の中だけで全て把握する事は困難である為、常日頃から図鑑・飼育本などをを参照し知識の蓄積に努める。 並行して実際に観賞魚店・水族館などを訪れ、生体・飼育器具・飼育方法など生の情報収集行う。 定期的に発行されるアクアリウム専門誌などにも目を通し、最新の情報・新商品・新着魚種などにもアンテナを張る。 実際に自宅で海水魚の飼育が行えればなお良い。
評価方法	■筆記試験：80% ■授業・実習態度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト、PC

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	観賞魚研究Ⅱ （ Ornamental Fish Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	田中 侑弥
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限

【授業の学習内容】

海洋生物に関する知識及び、飼育用品・機材・設備を学ぶ。
またそれらを応用して、濾過槽別に水槽の立ち上げやメンテナンスを学び、実習する。

※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

海洋性魚類・無脊椎動物・海藻類の飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。

授業計画・内容	
1回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑥
2回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑦
3回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑧
4回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑨
5回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑩
6回目	海水水槽の立ち上げと日常管理①
7回目	海水水槽の立ち上げと日常管理②
8回目	海水水槽の立ち上げと日常管理③
9回目	海水水槽の立ち上げと日常管理④
10回目	大型施設の日常管理における注意点
11回目	水族館資料鑑賞
12回目	海水魚の病気・治療方法について
13回目	期末試験範囲振り返り
14回目	期末試験と振り返り
15回目	期末試験返却、前期まとめ
準備学習 時間外学習	数千種にも及ぶ海水魚の種類とその飼育方法を講義の中だけで全て把握する事は困難である為、常日頃から図鑑・飼育本などをを参照し知識の蓄積に努める。 並行して実際に観賞魚店・水族館などを訪れ、生体・飼育器具・飼育方法など生の情報収集行う。 定期的に発行されるアクアリウム専門誌などにも目を通し、最新の情報・新商品・新着魚種などにもアンテナを張る。 実際に自宅で海水魚・無脊椎動物の飼育が行えればなお良い。
評価方法	■筆記試験：80% ■授業・実習態度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト、PC

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	魚病学 (Fish Pathology)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	髙山 清次
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

ウイルス性・細菌性・寄生虫病など魚類に多くみられる疾病の予防、治療方法を理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

ウイルス性・細菌性・寄生虫病などによる魚病の症状の予防、治療方法を実践することができる。

授業計画・内容	
1回目	魚病学の概要を理解できる。
2回目	疾病の発生原因を理解できる。
3回目	疾病を予防する上で必要なことを理解できる。
4回目	水温と魚類の関係について、理解できる。
5回目	急激な温度変化による魚類への影響について理解できる。
6回目	観賞魚の皮膚の構造について理解できる。
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	観賞魚の酸素必要量・酸素供給量について理解できる。
9回目	水槽内での窒素循環・硝化細菌の定着について理解できる。
10回目	pHと水換えの関係性を理解できる。
11回目	観賞魚の疾病の分類について理解できる。
12回目	観賞魚用医薬品の成分について理解できる。
13回目	観賞魚用医薬品による治療方法について理解できる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

学校図書
インターネット

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	動物栄養学概論 （ Introduction of Nutrition for Animals ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて学ぶとともに、飼料の種類・給餌方法などを理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて理解を深め、飼料の種類・給餌方法を適切に判断し、実践することを目的とする。

授業計画・内容	
1回目	栄養と栄養素の説明ができる。
2回目	エネルギー栄養素の説明ができる。
3回目	脂肪・タンパク質の働きが理解できる。
4回目	ビタミンの働きが説明できる。
5回目	ビタミンA・D（脂溶性ビタミン）の説明ができる。
6回目	ビタミンB・C群(水溶性ビタミン)、ミネラルの説明ができる。
7回目	ペットフードの歴史が説明できる。
8回目	中間評価及び振り返り
9回目	ペットフードの種類を説明できる。
10回目	ペットフードの目的別分類が実践できる。
11回目	家庭用食材からのペットフードの作り方を理解できる。
12回目	動物にとっての魚肉、乳製品、玉ねぎの害について理解できる。
13回目	動物にとっての玉ねぎ中毒・チョコレート中毒について理解できる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

学校図書
インターネット

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	マネジメント・マーケティング （Management and Bisiness Marketing）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中村　元洋
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日1時限

【授業の学習内容】

マネジメントの概要と基礎を学ぶ。
1)リスク認識力～冷静に何がリスクか認識でき、回避行動が取れる
2)判断力～多様な問題を検討し、ブレずに主体的に最善の判断をし、決断ができる
3)課題認識力～組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標が立てられる
4)計画立案力～目標達成のための手段を選択でき、計画が立てられる
5)目標管理力～刻々と変化する環境下、計画や手段を修正しながら、粘り強く達成への努力が続けられる
6)顧客満足力～顧客など組織外の利害関係者の期待に応えることができる
7)調整・交渉力～組織内外の利害関係者に対して交渉・調整ができる
8)組織運営力～組織メンバーとコミュニケーションを取りながら動き、部下の能力を結集できる

※担当教員実務経験：2016年3月～企業や社会人資格取得学校において、コーチングやリーダーシップ、心理学を取り入れた研修及び講座、カウンセリングを実施。

【到達目標】

マネジメント及びマーケティングの基礎の習得。具体的には、以下の目標。
①あるべき姿と現場のギャップを的確に発見して、組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標を立てる
②課題の解決に向けて、周囲の認識を共通のものにし、部署・組織全体と連携した行動により、自身の提案を実現する
③顧客ニーズの抽出、顧客満足度を獲得するための知識、技術の習得を通して、社会人基礎力の向上を図る

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：授業の進め方、自己紹介、なぜ、この授業を行うのか？授業の目的について
2回目	マーケティング基礎知識：マーケティングとは？マーケティングの対象、マネジメントとの関係性について
3回目	マーケティングのポイント：顧客ニーズ・顧客満足度について
4回目	マーケティングの5ステップ：マーケティングの戦略策定、4Pについて
5回目	サービスとリーダーシップ：サービスとリーダーシップの関係性からホスピタリティを考える
6回目	マネジメント基礎知識：マネジメントの役割・マネジメントの社会での必要性・マネジメントとマネージャとリーダシップとは？
7回目	効果的な意思表示：自己の感情表現タイプをチェックし、効果的な意思表示について学ぶ
8回目	アンガーマネジメント：感情についての理解を深め、アンガーマネジメント法の基礎を学ぶ
9回目	関わり方：「物事の進め方のタイプ」について理解を深める
10回目	チームマネジメント①：グループで関わることについての理解を深める
11回目	チームマネジメント②：会議・ミーティングについて学ぶ
12回目	リーダーシップとスポンサーシップ：信頼関係を構築する関わりについて学ぶ
13回目	全体発表：学んだこと・発見したこと・印象残ったことを通して、今後、どう活かしていくのか？考えをまとめ、発表する
14回目	試験：筆記テストと実技を実施し、これまでの学びの復習と理解度を図る
15回目	まとめ・振り返り
準備学習 時間外学習	時間外学習：提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書の熟読。
評価方法	● 試　験　：　70点 ● 課　題　：　30点（課題提出状況）

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材：講師作成資料
参考図書：「サクッとわかるビジネス教養 マネジメント」「アドラー関連書籍」など

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	マネジメント・マーケティング （Management and Bisiness Marketing）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中村　元洋
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日１時限

【授業の学習内容】

マネジメントの概要と基礎を学ぶ。
1)リスク認識力～冷静に何がリスクか認識でき、回避行動が取れる
2)判断力～多様な問題を検討し、ブレずに主体的に最善の判断をし、決断ができる
3)課題認識力～組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標が立てられる
4)計画立案力～目標達成のための手段を選択でき、計画が立てられる
5)目標管理力～刻々と変化する環境下、計画や手段を修正しながら、粘り強く達成への努力が続けられる
6)顧客満足力～顧客など組織外の利害関係者の期待に応えることができる
7)調整・交渉力～組織内外の利害関係者に対して交渉・調整ができる
8)組織運営力～組織メンバーとコミュニケーションを取りながら動き、部下の能力を結集できる

※担当教員実務経験：2016年3月～企業や社会人資格取得学校において、コーチングやリーダーシップ、心理学を取り入れた研修及び講座、カウンセリングを実施。

【到達目標】

マネジメント及びマーケティングの基礎の習得。具体的には、以下の目標。
①あるべき姿と現場のギャップを的確に発見して、組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標を立てる
②課題の解決に向けて、周囲の認識を共通のものにし、部署・組織全体と連携した行動により、自身の提案を実現する
③顧客ニーズの抽出、顧客満足度を獲得するための知識、技術の習得を通して、社会人基礎力の向上を図る

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：前期で学んだことに関する振り返り、取り組みに関する感想のシェア、質問や事例対応、後期授業の説明
2回目	コーチングとは：コーチングについての基本的な知識
3回目	セルフコーチングとは：自身に行うコーチングについての基礎的知識
4回目	スタッフマネジメント：信頼関係のプロセス　信頼関係を築くスキル
5回目	傾聴とは？：傾聴の基本的な知識を学習
6回目	効果的な質問：質問への理解を深め、実践しながら質問の使い分けを身につける
7回目	効果的な言葉がけ：言語が与える影響について学ぶ
8回目	ケーススタディ～上司～：身近な人、考えられる人の対応について実践しながら学ぶ
9回目	ケーススタディ～部下～：身近な人、考えられる人の対応について実践しながら学ぶ
10回目	コーチング的目標設定：目標達成、コーチングの効果を高める
11回目	違う視点での目標設定：目標設定の別のやり方について学び、目標達成力をさらに高める
12回目	フューチャーペーシング：セルフコーチングを実施し、マインドマップ・未来予想図を作成する
13回目	全体発表：これまで学んだこと、今後の自身の展開予想を発表
14回目	試験：筆記テストと実技を実施し、これまでの学びの復習と理解度を図る
15回目	まとめ・振り返り
準備学習 時間外学習	時間外学習：提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書の熟読。
評価方法	● 試　験　：　70点 ● 課　題　：　30点（課題提出状況）

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材：講師作成資料
参考図書：「コーチングの基本」「コーチングが人を動かす」など

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	企業プロジェクトⅡ（Company Project Ⅱ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	各企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案をできるようになる。
・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。
・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。
・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。
・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。

授業計画・内容	
1回目	企業プロジェクトとは①　～企業プロジェクトの意義や目的・目標を明確にする～
2回目	企業プロジェクトとは②　～過去の企業プロジェクトの事例紹介～
3回目	企業プロジェクトの進め方　～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	オリエンテーション①　～企業から課題を頂く～
5回目	オリエンテーション②　～質疑応答～
6回目	企画立案①　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い①～
7回目	企画立案②　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い②～
8回目	企画立案③　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い③～
9回目	企画立案④　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い④～
10回目	企画立案⑤　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い⑤～
11回目	現地視察・調査①
12回目	現地視察・調査②
13回目	現地視察・調査③
14回目	現地視察・調査④
15回目	現地視察・調査まとめ
準備学習 時間外学習	・各自（各班）で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

現場での施設備品、道具類

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	企業プロジェクトⅡ（Company Project Ⅱ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	各企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案をできるようになる。
・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。
・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。
・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。
・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。

授業計画・内容	
1回目	プランニング・コミュニケーション①-1
2回目	プランニング・コミュニケーション①-2
3回目	プランニング・コミュニケーション①-3
4回目	プランニング・コミュニケーション①-4
5回目	プランニング・コミュニケーション①-5
6回目	プレゼンテーション①
7回目	プレゼンテーション②質疑応答
8回目	プランニング・コミュニケーション②-1
9回目	プランニング・コミュニケーション②-2
10回目	プランニング・コミュニケーション③-3
11回目	イベント運営・商品化①
12回目	イベント運営・商品化②
13回目	イベント運営・商品化③
14回目	まとめ①
15回目	まとめ発表
準備学習 時間外学習	・各自（各班）で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

現場での施設備品、道具類

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	進級課題	必修選択	必修	年次	2	担当教員	矢作　友規
	（Level Advancement Study）	授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面・遠隔授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う

【到達目標】

学習成果（知識・技術）をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。

授業計画・内容	
1回目	進級課題とは①　～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方　～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定　～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習①　～自分（班）のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習②　～途中経過の報告～
7回目	実践学習③　～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備①　～パワーポイント作成～
9回目	発表準備②　～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③　～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④　～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤　～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り　～各自（班内）で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自（各班）で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	業界研修	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
	（ Business Internship ）	授業形態	演習	総時間（単位）	90	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		（6）	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。
・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。
・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。
・自らの「キャリア」をデザインできる。

授業計画・内容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表（20%） これらを総合的に判断して評価

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	特別講義＆見学 （Special Lecture）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・動物業界で必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
・動物業界で必要な人間力を理解し、身に付ける。
・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授業計画・内容	
1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	イベント運営 （Event Management）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	矢作　友規
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・企画立案、運営ができるようになる。
・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
・接客を知り、実践できるようになる。
・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
・予算管理を実践し習得する。
・スケジューリングを理解し、実践できる。

授業計画・内容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備（50%） ・レポート(50%)

【使用教科書・教材・参考書】

過去のイベント資料

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	特別課外活動 （Club Activities）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各クラブ顧問
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学友会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。

【到達目標】

・チームワークを身に付ける。
・計画性を身に付ける。
・予算管理を身に付ける。
・マネジメントを理解し身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	ボランティア活動（Volunteer Work）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。

※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。
・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去のボランティア活動報告書

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	資格取得講座 （Seminar for a Qualification）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	矢作　友規
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。

【到達目標】

・各検定試験、資格試験の合格

授業計画・内容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の各検定、資格教本